同じ坂上郎女の歌一首

九九三番

月立ちて　ただ三日月の　眉根掻き　日長く恋ひし　君に逢へるかも

大伴宿禰家持の初月の歌一首

九九四番

振り放けて　三日月見れば　一目見し　人の眉引き　思ほゆるかも

大伴坂上郎女の、親族を宴する歌一首

九九五番

かくしつつ　遊び飲みこそ　草木すら　春は生ひつつ　秋は散り行く

六年甲戌、海犬養宿禰岡麻呂、詔に応ふる歌

九九六番

御民我　生けるしるしあり　天地の　栄ゆる時に　あへらく思へば